



# 滋賀陸協広報

一般財団法人 滋賀陸上競技協会  
〒520-0037 大津市御陵町4-1 皇子山陸上競技場内2-1室  
Tel/fax077-527-3925 <http://srkshiga.com>

一般財団法人滋賀陸上競技協会  
専務理事 坂 一郎

令和の新しい年を迎え早や1か月が過ぎようとしています。平素は本協会の事業に対しましてご支援ご協力を賜りまして、心より御礼申し上げます。

東京オリンピックまで半年となり、日本全国オリンピックムードになって来つつあり、競技を問わず、滋賀から世界の舞台へ巣立つ選手が一人でも多く輩出できることを期待しています。

また、2024年国民スポーツ大会の開催まであと4年となりました。滋賀県の対策本部においては、施設整備の遅れや、強化対策の具体的な指針も不透明な状態であり、時間ばかりが進んでおります。特に成年の強化方針については協会としては難しいところでもあります。

さて、昨年の滋賀県の競技力を振り返りますと、ドーハの世界陸上では、桐生選手（日本生命）河内選手（近畿大）が活躍いたしました。また、茨城国体では、成年男子走高跳で瀬古選手（中京大）が3位となりましたが、国体での入賞者は3名どまりでした。鹿児島国体での活躍を期待したいと思います。

しかしながら、1月12日・19日に開催されました男女都道府県対抗駅伝競走大会では女子が23位、男子が20位と大変健闘してくれました。令和2年の競技力向上に向けての魁となりました。

ところで、滋賀陸協の台所が大変難しい状態にあります。決算期を迎え、また来年度予算を立てていくときに現状のまま行くと、5年後には、赤字団体に転落することは、必至であります。今夏には、事業・予算にかかる抜本的な改革の素案を提案する予定です。

結びになりますが3月の理事会、6月の評議員会において令和2年度の事業・予算を承認いただく運びではありますが、やはり、会員皆様のご理解をいただき、ご協力を賜りながら推進していく所存であります。令和2年度も変わりなくよろしくお願い申し上げます。

## 【 強化委員会 】

### <第74回いきいき茨城ゆめ国体 天皇杯44位 皇后杯39位>

10月4日(金)～10月8日(火)の5日間、茨城県笠松運動公園陸上競技場において開催されました。ドーハ世界選手権と同時開催であったため、桐生選手や河内選手の出場はなりませんでしたが、滋賀県選手団29名が戦い抜きました。その中でも、成年男子走高跳3位の瀬古選手をはじめ、少年男子800m6位の齋藤選手、少年女子やり投5位の木村選手の3名が入賞を果たしてくれました。また、少年女子3000mの北川選手は、入賞こそ逃しましたが県高校新記録を樹立しました。滋賀県全体の結果としては厳しいものとなりましたが、茨城国体を総括し、次年度鹿児島国体での躍進に繋げていきたいと思っております。

応援ありがとうございました。



**<第 38 回都道府県対抗女子駅伝 2 時間 21 分 54 秒 23 位>**

1 月 12 日(日) たけびしスタジアム京都(西京極)をスタートに行われました。中学生から一般選手までの 7 区間で滋賀の襷をつなぎ、目標タイムを上回る成績をおさめました。スタートから 2 区までは全国高校駅伝を大きく上回るタイムでつなぎ、順位を大きく落とすことなくアンカーまでつなぎました。今年度のチームを結成してから、短期間でチーム滋賀を作り上げ、それぞれが現状の力を発揮してくれました。



**<第 25 回都道府県対抗男子駅伝 2 時間 20 分 28 秒 20 位>**



1 月 19 日(日) 平和公園記念公園を発着に行われました。過去の大会は大学・一般選手区間は実業団所属の選手が中心となっていました。今年度は大学生中心となり新しい布陣となった。選考会から合宿までは中学・高校生中心となったが、日を重ねるごとにコミュニケーションを図りながらチーム滋賀を作り上げた。レースは、1 区が 19 分台で 12 位ながらもトップに食い下がり、中盤までは 10 位台で推移した。高速レースの中で、選手全員が力を存分に発揮してくれた。今回のタイムは、過去 5 回大会からのコース変更後、滋賀県新記録となり、大学生中心のなか全員で大きな結果を出してくれた。

**【 普及委員会 】**

**【滋賀陸上フェスティバル】**

2019 年 11 月 10 日、水ロスポートの森陸上競技場で「第 4 回滋賀陸上フェスティバル (シガリク)」を強化委員会と連携し、開催しました。今回は 200 名を超える小学 5・6 年生が参加してくれました。走・跳・投のブロックに分かれての陸上教室と、100m 走・走り幅跳び・ジャベリックボール投げ・1000m 走のうち 2 種目の測定会を行いました。

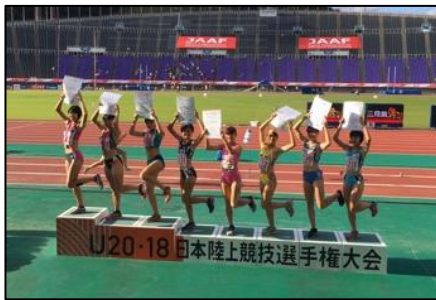
国体滋賀代表選手も参加し、それぞれのパフォーマンスを見せてくれました。また測定会では一緒に小学生と走ってもくれました。実際に全国で戦う選手の動きを見て感じる事ができ、小学生は目を輝かせていました。最後には、お楽しみ抽選会もあり、大いに盛り上がるイベントとなりました。今後も楽しんで陸上競技に取り組んでもらい、2024 年の滋賀国体では是非彼らに大活躍してもらいたいと思います。





## 【 高体連 】

2019年10月18日～20日に広島広域公園陸上競技場で第35回U20・18日本陸上競技選手権大会が行われました。U18女子三段跳で彦根翔西館高校の島田歩果さん(2)が2位、U18男子300mで米原高校の山田怜央くん(3)が7位、U18男子300mHで彦根翔西館高校の西村晟太郎くん(3)が7位、U20女子やり投で近江高校の木村玲奈さん(3)が4位、以上4選手が入賞を果たしました。国体では、思うような結果を残すことができなかった選手の活躍がみられ、今後ますますの飛躍が期待できると思います。また、木村玲奈さんが、8月25日、27日に中国の長沙で開催された第27回日・韓・中ジュニア交流競技会に、日本代表選手として、やり投に出場するという輝かしいニュースもありました。



11月3日に行われた県高校駅伝において、男子の部では滋賀学園高校が2年連続12回目の優勝、女子の部では比叡山高校が7年連続9回目の優勝を果たし、12月23日に行われる全国高校駅伝への出場権を獲得しました。全国高校駅伝の結果は、滋賀学園高校が25位、比叡山高校が23位と目標には届きませんでした。滋賀学園高校の2時間5分51秒という記録は県勢の過去最高記録という素晴らしいものでした。また、11月24日に行われた近畿高校駅伝において、男子の部で滋賀学園高校が6位、女子の部で比叡山高校が7位という結果でした。



国民体育大会の滋賀県開催が近づく中、様々な活動により、競技力の高い選手の更なる向上、今後の可能性を秘めた選手の発掘等に力を注いでいます。なかなか思うような結果につながらないこともあった1年でしたが、これを糧に来年以降新たな対策・活動を行い、滋賀県勢が大きな舞台で今まで以上に結果を残せるようにしていきたいです。今後とも、高体連の活動への応援、サポートを宜しくお願い致します。

## 【 中体連 】

### ジュニアオリンピック・全国中学駅伝の結果

今年度のジュニアオリンピックは台風の影響で1日目のみ開催となった。天候もすぐれない中ではあったが、間瀬秀康選手（松原中・3年）がA男子2000mで決勝進出を果たし、8位入賞することができた。入賞こそ1種目のみであったが、大舞台で自己ベストを更新する選手もおり、滋賀県選手が大きな舞台で力を発揮するシーンも見られるようになってきた。

全国で入賞する選手が毎年出てきているのは、本人の努力はもちろんのこと、各学校や県での強化事業が一つの成果として表れているが、やはり複数の選手が入賞することが少ないのは少し寂しさを感じられる。そのあたりが今後の課題となってくるであろう。

全国中学駅伝は、希望が丘で開催されて4年目を終えた。滋賀県勢の結果を見てみると、女子は水口中学校が29位、北大路中学校が38位。男子は甲西北中学校が38位、水口東中学校が43位という結果であった。地元で開催されている地の利を考えると、やはり少し物足りなさを感じる。県全体の中長距離の選手層を見ても、来年度はさらに厳しい状況が予想される。それらをどのように引き上げ、サポートしていくかが課題として大きく挙げられる。



写真：間瀬選手  
近畿大会優勝時のもの

## 【 マスターズ 】

### 第25回滋賀マスターズ陸上競技選手権大会模様

令和元年8月25日（日）、第25回滋賀マスターズ陸上競技選手権大会が、甲賀市陸上競技場で開催されました。参加者はマスターズ297名、小学生201名で、20日後に行われる全日本大会に向け他府県からの参加者も多く、滋賀マスターズからは100名でした。

当日は酷暑とまではいかない天候に恵まれ、9時30分から行われた開会式では、小林会長の挨拶・坂審判長による諸注意の後、井手橋選手による力強い宣誓がなされました。その後、男子5000m走を皮切りに各種目の競技が行われ、熱戦が繰り広げられました。小学生たちも日ごろの練習成果を大いに発揮し、それぞれの競技に取り組んでいました。最終競技はリレー種目で、各チームに盛大な声援が送られる中、選手たちの素晴らしい活躍で大会の幕が閉じられ、閉会式となりました。なお、審判員の確保等課題のある中、水口中学校の生徒たちが、運営補助員としてきびきびと活動してくれて、スムーズな大会運営ができました。



### 第40回全日本マスターズ陸上競技選手権大会模様



2019年9月13日（金）～16日（月・祝）にわたり標記大会が前橋市で開催されました。総勢2,231名、海外からも77名の参加があり、滋賀県からは67名が参加しました。

ほぼ雨が降らず、いい天候に恵まれ“鶴舞う形の群馬県 いつも青春 ずっと青春”のスローガン通り、皆さん浚刺と競技に参加していました。ひとつ残念だったことは、三段跳びのラインが最低でも7mと決められ、M65以上の競技者で砂場に入れずMN（記録無し）に終わった人や、M80以上では全員DNS（棄権）という事態になってしまい、

いつもの柔軟な進行が望まれました。マスターズ陸上は、試合の勝ち負けや記録も大事ですが楽しみ方は人それぞれ、全国から集う仲間と交流し、仲間を増やす楽しみもあります。来年は福井大会、桐生祥秀選手が日本人で初めて10秒の壁を破った『9.98スタジアム』で行われます。

### 第32回全日本マスターズ駅伝競走大会模様

3年連続開催された滋賀から愛知への襷が受け継がれ2年、11月17日（日）に愛知県長久手市の愛・地球博記念公園で第32回全日本マスターズ駅伝競走大会が開催されました。前日から滋賀マスターズ役員・選手団総勢25名はバスで会場入りし、開会式・交流会を経て、当日を迎えました。

大会には全国から25府県68チームの参加があり、心地よいポカポカ陽気の秋晴れの中、熱戦が繰り広げられました。

滋賀からは駅伝に3チームが参加し、男子・女子・エルダーの部、それぞれで3位に入賞、大健闘でした。総合の部は、1位の兵庫と同点、男子優勝が優位となる規定により第2位ということになりました。続いて開催されたロードレース大会には6名が参加し、それぞれ好成績を残すことができました。男子の部に初参加の川西選手は「3人追い抜くことができ、気持ちよかった。3位入賞も嬉しい。」と語ってくれました。また、行き帰りのバスの中、修学旅行を思わせるような盛り上がりの中で、楽しい時間を過ごすことができました。スタッフの皆様ありがとうございました。なお、来年度の開催地はまだ未定です。



#### [ 編集後記 ]

令和元年度、後半のシーズンの状況を掲載しました。令和2年度は東京オリンピック、滋賀県出身の選手の健闘を期待したいと思います。2024年の滋賀国スポに向けて勢いのある滋賀県チームを作ってもらいたい。

令和2年度から、滋賀陸協個人登録はアールビズからの登録となります。また、競技会（記録会も含む）のエントリーはアスリートランキングを使用することとなります。詳しくはホームページにてお知らせします。